

厚生労働科学研究費補助金難治性疾患政策研究事業
IgG4 関連疾患の診断基準並びに診療指針の確立を目指す研究
分担研究報告書（平成 29 年度）

IgG4 硬化性胆管炎全国調査（2018）

研究分担者 滝川 一 帝京大学医学部内科学講座 主任教授
研究協力者 田中 篤 帝京大学医学部内科学講座 教授

研究要旨：われわれは過去、2012 年・2015 年と 2 回、全国 211 施設を対象として IgG4 関連硬化性胆管炎（IgG4-SC）の全国調査を行い、2012 年には 43 例、2015 年には 534 例を集積して、日本における IgG4-SC の実態を報告した（Clin Gastroenterol Hepatol, 2017; 15: 920-926）。今回、これらの症例のその後の経過を把握し、加えて新規例を新たに登録するため、2018 年の全国調査を計画した。

A．研究目的

われわれは過去、2012 年・2015 年と 2 回、全国 211 施設を対象として IgG4 関連硬化性胆管炎（IgG4-SC）の全国調査を行い、2012 年には 43 例、2015 年には 534 例を集積した（Clin Gastroenterol Hepatol, 2017; 15: 920-926）。これらの症例のその後の経過を把握し、加えて新たに新規例を登録するため、2018 年の全国調査を計画した。

B．研究方法

既報のごとく、PSC および IgG4-SC 全国調査は、本研究班班員、厚労省難治性疾患等政策研究事業「難治性の肝・胆道疾患に関する調査研究」班班員、および日本胆道学会評議員を対象として、全国の施設に調査票を送付し、該当症例について記載を依頼する。

（倫理面への配慮）

本研究は「人を対象とする医学系研究に関する倫理指針」を遵守し、近々帝京大学倫理委員会の審査を申請する予定である。

C．研究結果

D．考察

現在調査準備中であり結果は得られていない。

E．結論

2018 年全国調査を行うことにより、新規症例も含めさらに多くの症例が集積され、既登録症例の長期経過を知ることができ、我が国における IgG4-SC の実態がさらに明らかになることが期待される。

F．研究発表

1. 論文発表
なし
2. 学会発表
なし

G．知的財産権の出願・登録状況
（予定を含む。）

1. 特許取得
なし
2. 実用新案登録
なし
3. その他
なし